

豊かな心 × 確かな学力



教育目標は「やさしさ・かしこさ・たくましさ」

創立30周年、変わらぬ教育への想い

幼児期・児童期は、子どもの長い人生において非常に重要な時期といわれ、どのような教育をするかが将来に大きな影響を与えます。

その大切な教育の一端を担う朝日学園グループは、1981年の開学以来、「個性を伸ばすハイレベルの教育」を建学の精神に掲げ、朝日塾幼稚園、朝日塾小学校、朝日塾中等教育学校（中等部・高等部）、鹿島朝日高等学校（通信制）と、幼稚園の2歳児から大学入学まで一貫した教育方針のもとで指導を行っています。

1993年に開校した朝日塾小学校は、2023年に創立30周年を迎え、これまで以上に教職員が一体となり、変わらぬ教育への想いを持って、子どもの個性が輝く、知育に偏らない全人格的教育を進めています。

豊富な体験学習から得られる学び

「確かな学力」の意味するところは、学力テストの点数や通知表の成績だけではなく、知識や技能はもちろん、学ぶ意欲や、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、より良く問題解決する資質や能力を身につけてこそ、「確かな学力がついた」といえるのです。

本校では、確かな学力の基礎となり、豊かな心の育成につながる体験学習をととても大切にしています。運動会や音楽発表会といった学校行事はもちろん、米や野菜を育てる農業体験、地元の生産者から学ぶ校外学習、世界に目を向けるきっかけとなる国際協力NPOの出前授業など、数多くの体験学習を通して、自然や社会の現実に触れる機会を増やし、子どもたちの「生きる力」を育みます。

豊かな心を育み、生きる力を身につける

6年生の多くが中学受験を経験する本校において、「確かな学力」をつけることは使命であると考えています。しかしながら、変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちに最も大切なのは、学力に加えて「豊かな人間性」や「健康と体力」をバランス良く身につけ、「生きる力」を育んでいくことです。

豊かな人間性、豊かな心を育むため、本校では、品格教育にも力を入れています。具体的に夢を持ち、目標を定め、志を立てることを指導する「志授業」、あいさつの習慣やしつけ・マナーを丁寧に教えていく「礼法指導」、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにする読書活動の推進なども品格教育の一つです。

ベテランと若手が協働し、子どもと築く信頼関係

本校では、専科教員が音楽、図工、体育などの授業を担当し、学年の副担任を兼務するかたちで担任と連携し、より質の高い授業を目指して、活発な意見交換を行っています。開校当初から教壇に立つベテランから勤続年数の短い若手まで、年齢、性別、経歴もさまざまな教員たちが協働し、日々真剣に子どもたちと向き合っています。

教員が最も大切にしていることは、子どもたちとの信頼関係、子どもたち相互の好ましい人間関係を基礎とした教育活動です。教員に対する信頼感には子どもに安心感を与え、やる気を引き出します。深い信頼関係が土台となって、学力の一層の伸長や調和のとれた人間性豊かな子どもの育成につながっていくと考えています。

高い学力、表現力、品格を備えた次世代のリーダーを育成

朝日塾小学校の建学の精神は、「個性を伸ばすハイレベルの教育」です。また、「個性化・国際化・情報化」は建学の精神を支える3本柱です。次世代のリーダーたる人間の育成を目指しています。

「やさしさ（利他）」「かしこさ（英智）」「たくましさ（剛健）」を兼ね備えた子どもを育てることを学校教育目標に掲げ、人としての品格を高める指導と、高い確かな学力をつける指導に力を注いでいます。

新学習指導要領で注目される「アクティブラーニング」「プログラミング」「問題解決的な学習や思考力の育成」などは、しっかりとしたカリキュラムのもとで以前から取り入れられており、大きな実績を上げています。子どもたちが得た知識や技能の活用を図り、主体的な学習態度を育て、子どもの思考力・判断力・表現力を高め、より高い学力の伸長を図っています。

「GIGAスクール構想」により整備された1人1台端末と高速通信ネットワークを活かし、「ICTを活用した『わかる楽しさ・できる喜び』のある授業づくり」に取り組んでいます。その成果として、子どもたちに、ICTを活用して学ぶ楽しさを実感させることができている。

学校が安全で、子どもたちが安心して学び、生活できる場であることを大前提とし、教職員は、子どもを「認め、ほめ、励ます」という姿勢で一人ひとりの個性を伸ばすことに注力しています。1時間、1時間の授業を大切にしながら、何事にも一生懸命取り組む子ども、調和のとれた人間性豊かな子どもの育成を目指してまいります。

校長 平松 顕一